みわを元気に

三和地域協議会ニュース　第30号　令和2年3月３０日発行

三和地域の人口・世帯数
男　1,572人
女　1,646人
合　計　3,218人
世帯数　1,662世帯
（令和２年２月末 現在）

発行：三和地域協議会
編集：広報編集委員会

三和地域協議会の定期総会を文書決議に
ー コロナウィルス対応で苦渋の選択 ー

三和地域協議会では、前年度の事業報告、決算、新年度の事業計画や予算を審議していただく定期総会を、来る４月11日(土)に開催する予定で準備を進めてきました。

しかし、昨年末に中国で発生した新型コロナウィルスによる感染が全国的に広まり、学校閉鎖や大規模イベントの自粛など、さまざまな対策が進められています。しかし残念ながら、いまだ収束が見通せる状況には至っておりません。福知山市においても市民病院で市内初の感染が発生し、関係機関の懸命の対処により大規模な連鎖的感染にはなっていませんが、ウィルスの特徴からいつどこで新たな感染者が出てもおかしくないのが現状です。

協議会の総会は役員、各自治会・団体の代表者の代議員、傍聴者を含め、毎年80人以上に出席いただいております。また今年は協議会発足５周年を記念して、毎年実施してきた「講演会」に代えて「ミニコンサート」を実施する計画でした。

地元に縁のあるミュージシャンにも依頼し、100人を越えるコンサートにしたいと意気込んでいたところです。

しかし、閉鎖されたホールで３時間以上の集会になるということもあり、今回の総会は従来の方式での開催を断念せざるを得ないと判断いたしました。

議案送付と議決は郵送で

しかし、前年度決算の承認や新年度の計画・予算の承認なくして、新たな年度の事業を行うことはできません。そこで、代議員の皆さんには４月上旬に議案書を送付させていただき、それぞれの議案について文書で回答いただき、総会の議決としていきたいと思います。本来なら、一堂に会して皆さんのご意見やご要望を聞かせていただき、役職員が先頭に立って協議会活動の強化発展を確認して新年度を迎えるべきはありますが、現状をご理解いただき、今回の措置についてご協力をいただきますようお願いしたいと考えます。なお、議決がいただけましたら議案の内容等については、５月に発行します広報紙「三和を元気に」でお知らせすることとしております。また、予定しておりました記念コンサートについては、状況が落ち着いた段階で改めて開催したいと思いますので、楽しみにお待ちいただきたいと存じます。

三和で新しい農業に挑戦
ー万願寺甘とうの大規模栽培に挑むー

京のブランド野菜「万願寺甘とう」を三和地域で大規模栽培しているのが、久保世智さん（株式会社Season代表取締役）と松村賢三さん（同専務取締役）。気候変動や連作障害など、なかなか計画どおりの収穫を得るのは大変だということですが、昨年からはハウスの導入に踏み切るなど、努力を続けています。一昨年からは福知山公立大学の地域経営演習の講師として、その取組みや課題、苦労などについてお話を伺う機会もありました。

地域の働き場確保も含め彼らの挑戦を応援していきたいと考えています。

お力をお貸しください！

「農業をビジネスとして成り立たせる」という思いのもと、高杉でハウス3棟（1235㎡）露地（6000㎡）の規模で経営しています。よそ者の我々を暖かく受け入れていただき大変感謝していると同時に、まだまだ自分達のことで精一杯な状況で、三和町にご恩返しできていないことをもどかしく思っております。休耕地や空き家の有効活用等、将来的には地域に役立つ会社となれるよう努力してまいります。WH制度を活用して台湾や香港から労働力を確保しているところですが、コロナの影響で今年の見通しの立たない状況の中、計画通り万願寺の定植はスタートし、6月末～10月に向けては収穫のピークを迎えます。是非我々にみなさまの隙間時間を提供していただけないでしょうか。

Ｓｅａｓｏｎのみなさん

ご連絡お待ちしています！

- 収穫　５時～１１時　（収穫 1,000円程度/時間）
- 選別　１４時～２.３時間程度（選別 950円程度/時間）

※１日２H～都合の良い日に来ていただいて結構です。
※選別は収穫量や人数によって時間が変動します。

問い合わせ先　090-8579-1258(久保まで)

みわひまわりRide
利用状況をお知らせします！

	累　計 （平成29年10月 ～ 令和2年2月）
会員登録者数	124人 （内訳：男性30人・女性94人）
利用者数	80人 （内訳：男性19人・女性61人）
運行便数	1，820便（内訳：町内 1，766便 ・プラント-3便 54便）

吃音（きつおん）って？

２月20日木曜日、三和地域公民館で福知山市などが主催する「共に幸せを生きるまちづくり人権講座」が開催され、約50名の方が受講されました。

講師は、兵庫県丹波市の老人ホームに勤務されている、越賀美穂（こしがみほ）さんで、自らが幼いころから悩まされてきた吃音のことをテーマに「知ってほしい吃音のこと、吃音を持つ私達のこと」と題して、自作の歌を交えてお話されました。

「吃音」とは、滑らかに言葉を話すことができない状態のこと。それを周囲の人が笑ったり、避けてしまうことで、知らず知らずのうちに人を傷つけてしまいます。講演を聴いて「吃音について正しく理解できていないことに改めて気づきました。

温かい社会になることを期待しています。」など多くの感想が寄せられました。

大勢の方が受講されました

学校は地域のために何ができるか

三和学園校長　細谷（ほそたに）　恵磁（けいじ）

この美しい三和の地で仕事をするようになって、早２年が過ぎようとしています。昨年は、三和中学校の校長として、今年は小中一貫教育校「三和学園」の校長として、十分なことはできませんでしたが、精一杯務めさせていただきました。

とりわけ本年度の学園開校に際しましては、設立準備委員会の皆様をはじめとして多くの地元の皆様にお世話になり、ありがとうございました。

さて、三和地域ではこれまでから地域教材を活用した教育に熱心に取り組んでこられました。田畑や農園をお借りして農作物を栽培したり、言い伝えや民話を教えていただいたり、神社仏閣を案内していただいたりと、児童生徒が多方面にわたり豊富な経験を積むことができました。今回の三和学園の誕生とともに、これまでの小中学校の学習を９年間切れ目なくつないで「三和創造学習」をスタートさせました。コンセプトとしては、「三和地域の過去と現在を知り未来を考える」学習と言うことになります。学校と地域との関係と語るとき、よく「ウィンウィンの関係」という表現がなされます。本来は、学校の教育活動が進むと地域も活性化し、地域が活性化すると学校教育も発展するという相乗効果についての表現であるべきだと思いますが、近年「持ちつ持たれつ」とか「相互に見返りがある」などという大変消極的な解釈をされるときもあります。

三和学園では、常に職員に「学校は地域のために何ができるか」を問いかけています。

時は今「教職員の働き方改革」真っ盛りでありますが、今後も「無理せずできることはすべてやる」と言う気持ちで取り組んで参ります。地域のセンターとしての三和学園であってほしいと願っています。

私事ですが、この３月をもちまして38年間の教職生活にピリオドを打つことになりました。三和地域での皆様のご厚情に厚くお礼申しあげます。ありがとうございました。

三和荘存続に向けての１年間の活動について
― 交流拠点施設「三和荘」は地域生命線 ―

福知山市では、昨年2月6日付けで市が設置する「福知山市指定管理者制度第三者評価委員会」（委員長　新川達郎　同志社大学教授）により、「福知山市指定管理施設のあり方検討にかかる調査報告」がなされました。

この報告書については翌2月7日、京都新聞において「福知山市内の4宿泊施設　指定管理から除外を」という見出しで報道され、広く住民の知るところとなりました。地域住民の衝撃は大きく、地域住民や三和荘で働く人たちからは不安の声が寄せられています。

現在の経営形態は、三和地域住民を代表する経営体として「特定非営利活動法人　丹波・みわ」（以下「NPO丹波・みわ」）を設立し、指定管理施設として民間経営を基本にしながら、公共性を確保する方式として運営されてきたものです。私たちは今回の報告書の公表に対する三和地域住民の不安や憤りの声を受け、地域内の主な住民組織の代表による「交流拠点施設『三和荘』存続住民会議」（5月17日設置）を組織し、この問題に対する対応について検討を進めることとしました。

その後、市の担当部局の説明を受けましたが、明確な説明が得られない中、自治会長会等で住民の意見を聞きながら、8月2日に福知山市に対し、「申入書」を提出しました。

申し入れに対して8月20日に回答の場が設定され、経過について市からの説明が行われました。内容はほとんど今後の検討に委ねるものであり、「申入書」の疑問に答えるものはありません。9月以降、指定管理者であるNPO丹波・みわとの間で協議が進み、本年3月で指定管理の期限を迎える事から、2年間の指定管理延長が合意されています。

12月には福知山市議会で指定管理の2年延長が認められ、存続会議に対して市から「回答書」が提出されましたが、内容は指定管理の継続と三和荘の経営及び建物診断の現状についての報告であり、私たち住民の根本的な疑問に答えるものではありません。

今後の基本的な方針や経営手法はもとより、三和地域振興における三和荘の役割などについても全く答えられていない内容です。

「交流拠点施設『三和荘』存続会議」では住民の皆さんの思いを結集し、三和荘存続と地域振興機能の発展のためとして、本年2月20日付で「申し入れ書に対する「回答書」について」を追加提出し、継続的な協議と対応、真摯な回答を求めています。新年度は三和荘の存続に向けての活動をさらに強化し、「交流拠点施設『三和荘』存続住民会議」に地域住民の総意を結集して、福知山市との協議をすすめていきたいと考えています。また、住民が三和荘を支え持続させていくための活動についても支援していきます。住民の皆さんのご理解とご協力をお願いします。

三和町文化協会機関誌「文化」50号 記念特集の発刊

郷土の先輩たちが営々と積み重ねてこられた三和町文化協会（和田憲幸会長）の機関誌「文化」が、このたび、第50号の刊行を迎えた。昭和52年8月の創刊号以来、年によっては2回の発行も含め、43年の長きにわたり、暮らしに根づく地域文化の発信を担った。

「継続は力なり」、という。

力を発揮できたのは協会加盟各会員の皆さんや、多くの住民の方々の支えのおかげで、この場を借りて、心から感謝を申し上げたい。

「文化」50号は記念特集とし、ページ数は50ページを超え、発行部数500部で、ともに通常より増やした。

町内外の企業・団体から助成も得て、体裁を整えることができた。

記事は協会加盟の会員以外からも広く募集。

令和2年発刊の「文化」50号

なくあり」の短歌も添えられていて、文化のあらゆる営みの根底に潜む「命の灯」を呼び覚まされた。

また、みかんの木文庫の活動を紹介する『喜びの分かち合い』は、子どもたちと豊かな心を通わせる絵本の読み聞かせや人形劇などの様子が記され、文化活動が持つ可能性の大きさを感じさせてくれる。

このほか、今年始まったNHKの大河ドラマ「麒麟がくる」にちなむ光秀関連の寄稿も興趣を引く。

光秀の丹波平定と関わりある『友渕の城』や、光秀絵の霊を慰める『御霊太鼓保存会と光秀公』など。

目の不自由な女性からの『見えないを生きて』の原稿には、「古希過ぎし見えずなれども意気あらば学びも知るも限り」の短歌も添えられていて、文化のあらゆる営みの根底に潜む「命の灯」を呼び覚まされた。

昭和52年発刊の「文化」創刊号

さらに、今は亡き夫とともに田畑に汗してきた女性の人生の詩『二人の大地』や、大原神社宮司の大原の産屋についての記述などもあり、おかげで、幅広く豊かな内容になった。

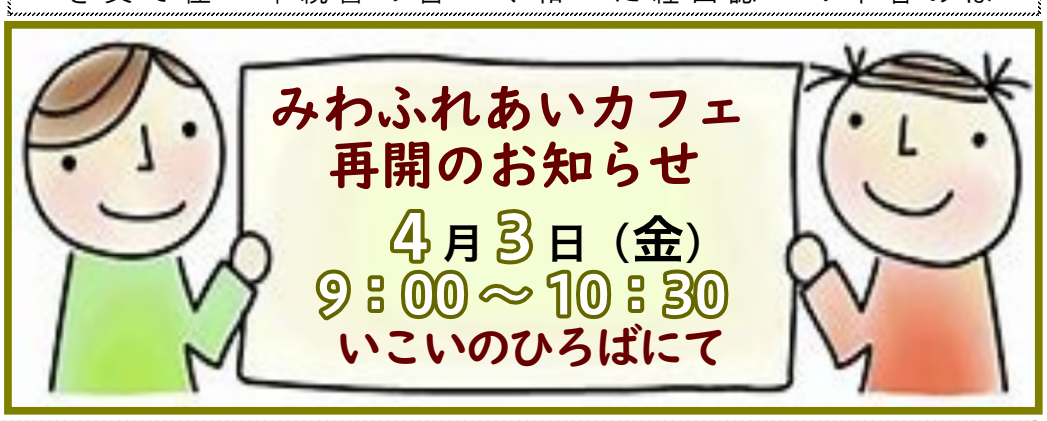
機会があればぜひ目を通していただきたい。

50号の特別寄稿として、井口和起福知山公立大学長からは、『「暮らしのかたち」を豊かにする地域文化が、これまでの「文化」各号に満載されている』と、大きな励みとなる言葉を頂戴し、また、NPO丹波みわの理事長で佛教大学の八木透教授からは、地域に残る伝承文化などを伝える文化誌の役割の重要性を指摘していただいた。

これら温かな激励を糧に、暮らしのかたちや伝承文化を伝える地域の文化誌として、今後も末永く発行できるよう努めたいと思う。

皆様の一層のご協力をお願いします。

（三和町文化協会副会長　後藤定司）



三和分館からのおすすめの本

三和分館は、三和会館の1階にあります。
小説や子ども向けの本だけでなく、新聞、雑誌、暮らしに役立つ本等いろいろなジャンルの本を取り揃えています。お気に入りの1冊を是非見つけに来てください。

絵本「それしかないわけないでしょう」
ヨシタケ シンスケ／著
未来の世界は大変なことばかりってお兄ちゃん。
それって本当！？おばあちゃんに尋ねてみると…。
未来に不安を抱えるすべての人に読んでほしい本。

小説　「ライオンのおやつ」　小川　糸／著
人生の最後に食べたいおやつは何ですか？瀬戸内のホスピスで残りの日々を過ごすことに決めた雫。
そこでは、毎週日曜日、おやつをリクエストできる「おやつの時間」があって……本屋大賞ノミネート作品。

実用書「日帰り温泉　(関西版)」エルマガジン
思い立ったらすぐ行ける日帰り温泉ガイド。
(2019年11月版)

ラジオは市立図書館三和分館

FM丹波で月～金曜午後4時から放送中の番組「七色バラエティワイド」内で隔月1回、三和地域協議会が三和地域の情報を発信している『みわを元気に』のコーナー、第16回が2月21日に放送されました。

今回は、福知山市立図書館三和分館でチーフとして勤務しておられる、大槻由美子さんをゲストにお迎えしました。

とても穏やかに話される大槻さん、その優しい声の中にも「住民のみなさんに、図書館へ足を運んでもらいたい！」という強い気持ちを感じました。

おはなし会や、としょかんまつりなどの活動も積極的に行われている三和分館さん、その話もっと聞きたかった…と思うくらい早く時間が過ぎました！

三和分館チーフの大槻由美子さんと

ちなみに皆さん、図書館の場所はご存知ですか？（三和会館の1階です♪）

「こういうことが書いてある本、ないかなあ」…きっと、図書館の方が見つけてくださいます！

お話を聞いていたら、色々な切り口から関連する本を探し出しておられるので、どんなジャンルの本でも見つけてもらえそう…さすがです。すごいです。

京都府内の図書館の本ならお取り寄せ可能だそうですし、新聞も置いてあります。

これは、行くしかありませんね！

左下のQRコードを携帯電話・スマートフォンやタブレットで読み取り、出てきたリンク先をクリックすると、内容をお聞きいただけます。

（通信料がかかります）